

## < 特記 >

# 「日本最後に残った最大マーケット誘致の秘策」

すべての旅人にやさしい山梨県

ツーリズム・フォア・オール(誰をも排除しない旅)の理念のもとに  
トラベルボランティア(道案内&有償旅先介助者)の養成・地域配備

過去に例を見ない、全国民の4分の1が65歳以上になる高齢時代を直視したツーリズム・フォア・オール(誰をも排除しない旅)の理念のもとにトラベルボランティア(道案内人と旅先介助者)の養成・地域配備・ネットワーク化を提案します。

## 1. 日本の現状、世界の現状について

旅は幸せの源であります。人を癒し、開放し、明日への力を生みます。日本人が実現したい余暇の第1位は、どの世代においても、「旅行」であります。(『財団法人 社会経済生産性本部『レジャー白書』2007年)。しかし、現在の日本では残念ながら、旅は健常者であってこそ享受できるものになっております。ひとたび障害をもったり高齢になって介護が必要になると、旅はとたんに諦めざるを得ないものになってしまっているのです。

日本はこれまで経験したことのない大変な高齢社会を迎えており、数年後には全人口の25%が高齢者になる見込みです。

総務省統計局の平成20年4月1日の確定値によると、日本の人口は1億2,768万7千人で、その25%はおよそ3,200万人に上ります。

一般的に、障害をもつ人を別の世界の人ととらえがちですが、実はそうではありません。今元気な人も、交通事故や病気、手術などから、障害をもつことになるケースも少なくありません。そして、老後は誰でも身体が不自由になることは否めません。

障害者白書(平成19年度版 内閣府)、厚生労働省の平成17年の患者調査、日本透析医学会(2006年度)からのデータにより、日本の障害者数と主な成人病・闘病者の概算総数を合わせると1,786万3千人にもなるというデータがあります。

単純計算はできないかもしれませんが、あえて高齢者と障害者総数、闘病者を単純に加えるとおよそ4,986万人。その5%を旅行者人口と想定してもおよそ249万人になります。10%と想定すると498万人です。少なくとも10人に1人は旅に出かけたいと思っているのではないのでしょうか。

これらは、日本に残存している最大の観光マーケットであると考えられないでしょうか。これらの人々がまだ旅を実現できていないのが現状です。

これらの人は療養を兼ねてゆっくり滞在型の旅を求めるので、単価の高い旅人となり、新たな顧客ニーズを開拓できるでしょう。彼らは個人で旅する場合でも、家族や同行者と共に複数で旅立ちます。山梨県が求める、宿泊をとまなう旅人の形と合致いたします。

## 2. 東京のバリアフリー事情

東京の公共交通機関のバリアフリー化は目を見張るレベルになっています。さすが日本の首都です。パリ、ロンドン、ニューヨークでもありえなかった、めざましくバリアフリー化が進んでおります。

具体的には、JR 山手線と都営地下鉄線など、車いすトイレやエレベーターは整備されており、ホームから列車に車いすの人を乗せる駅員たちのマニュアル化された迅速な動きは連携していました。駅に着くと、駅員にどこまで行くと伝え、ホームまで案内してくれ、到着する駅には別の駅員が車両前に待機、ホームから乗り換えのホームまで案内してくれます。JR から都営地下鉄に乗り換えるときは、都営地下鉄の駅員が、JR の改札口まで迎えに来てくれ、待ち時間はわずかです。東京は、世界一のユニバーサルデザインのツーリズムが実現しつつあります。

### 3 . 観光バリアフリーはソフト面が重要

その東京に隣接し、首都圏からの滞在型の旅人を誘致したいのであれば、山梨県も観光バリアフリーを目指す必要があるでしょう。といっても、地方には、未だに何十段もの階段が目の前に立ちのぼる駅も少なくありません。駅員のサポートも望めないこともあります。確かにハード面の不備をよりよく直すにはお金がかかるでしょう。ハードとソフトは車の両輪のようなものですから、先にソフト面の充実に着手してみませんか。

ソフト面で、人材育成はさほど難しくはありません。人材育成も、何の役割を担うのかを明確にする必要があります。学問としての人材育成ではなく、観光の現実面としての地域の特性に合わせた人材育成を提案いたします。それをすることで、地域の活性化にも寄与するものでなければなりません。

トラベルボランティアが山梨県の各地域に組織されれば、それらハード面の不備を補って、旅人を暖かく迎えることで、人に必要とされ、報酬を得られ、自分の健康にも役立つトラベルボランティア活動は、車いすや盲導犬、白杖を使って山梨県にやってくる旅人をはじめとして、地域に生きる人々をも元気にすると思います。

### 4 . トラベルボランティアとはなにか

あらためて、トラベルボランティアとは、高齢の人や、身体が不自由な人、子ども連れの人など、手助けを必要とする旅人を旅先で介助する人々のことでもあります。学問の世界ではなく、現場に暮らす人々が、養成講座を受講して、現場経験を経て、鉄道駅や空港で旅人を送迎し、車いすの人が来れば車いすを押して旅する手伝いを行います。荷物が大きい人が来たら荷物も持つお手伝いをします。また、目が不自由な人が来れば、手引きをしながら旅先へ誘導します。

現在、いくつかの旅行会社が発地型トラベルサポーター付きツアーを実施しています。また、一部の限られた自治体やNPOも着地型のトラベルサポーターを試行しています。しかし、取り組みの理念やスタンス、方法、ルールなどがバラバラであり、障害をもつ人、高齢者の包括的な旅行支援になりえていません。NPOによる移送サービスも日本各地にあります。福祉の枠を越えられていません。

#### (1) トラベルボランティアとは

単に旅人を助けるのではなく、助ける行程において、旅のノウハウや善意を十分発揮してもらおうという意味で、東京を拠点に活動する NPO 法人ジャパン・トラベルボランティア・ネットワークの理念を反映させています。なお、トラベルサポーター、トラベルヘルパーなど呼び方は様々です。

#### (2) トラベルボランティアの役割

身体的な助けを必要とする旅人の旅に 1 日単位で同行して、旅のサポートをする。線もしくは面の旅先介助を行う。道案内も含める。報酬は有償とする。

### (3) 有償であることのメリット

- ・ 費用をいただくことで、きまぐれではなく、きちっとしたルールのもとに、誰でも、いつでも、同じサービスを普遍的に受けられるようにするねらいがある。
- ・ 地域の熟年、高齢者の健康や生きがいつくり、さらに小さな雇用創出を目指し、地域の活性化に寄与するねらいがある。

トラベルボランティアは、旅人がなにをサポートしてほしいのか、きちっと旅人側のニーズに応えて、バリアフリーのハード面が足りないときでも力を発揮してくれる人々です。しっかり養成を行い、それぞれの地域で組織化し、山梨県の観光のおもてなしの売りにする必要があるでしょう。観光資源は自然ばかりではありません。暖かな人々のおもてなし、人も立派な観光資源なのだと思います。

また、各地にトラベルボランティアが育成されるとともに、トラベルボランティアの事務局や各駅のバリアフリー事情、身体の不自由な方のための交通アクセスや宿泊地の受け入れ状況、ボランティアの活動状況など必要な情報が手軽に手に入るインターネットのサイトが一元化され設置されれば、高齢者や身体に障害をもつ人の山梨県への旅行は質量ともに格段に広がるものと思われま

30年前に英国で生まれた概念に「Tourism for all」(すべての人のための旅)という考え方があります。日本風にいえば、ユニバーサルデザイン・ツーリズム「誰をも排除しない旅」です。これに目を向けることが、21世紀の山梨県の観光振興を成功させる道であろうと考えます。

多くの地方自治体はこれらのマーケットにまだ目を向けておらず、未だに、のぼり、キャラクター、ノベルティ、などの表面的な形に予算を使い、表面的な観光振興を祭りのように展開しております。旅したい人がたくさん存在するのに、来たくても来られない、旅先としての環境が整わないままにしておいて、観光客を誘致できるでしょうか。

水は高いところから、低いところへ流れますが、観光客は来てほしい、来てほしいと連呼するのではなく、来られる、来やすい環境づくりに真摯に取り組む必要があると考えます。

人は一生健康で、いつまでも足腰元気で旅に出かけられるのが理想ですが、万一、そうでなくなった時でも、旅に出かけられ、様々な出会いを経験し、前向きに生き抜くエネルギーを蓄えたいものです。そのような高い理念が観光振興には大切です。

## < 特記 >

### モデル・ウォーキング

## 身延山・久遠寺、奥の院フィットネス・ウォーキング 実踏調査報告

### < モデルコースづくり >

日蓮宗の総本山身延山久遠寺を中心のウォーキングコースをつくることにしました。身延在住の山梨女性の知恵委員会委員2人の案内で9月4日、まずロケーションハンティングということで歩きました。旅とは、二度目に行くのがっかりするコースも少なくありません。天気、体調、気分によって、感想は変わるからです。果たしてこのコースは価値があるか確認する必要があります。二度目は9月11日、Bの案内で、C、D2人の委員が加わり、4人で同じコースを歩きました。全員が万歩計持参。Aが血圧計を持参し、途中いくつかの地点で計りました。

コースづくりで気をつかうことは、

その土地の観光の売り要素をすべて盛り込みたい

楽しくなくては旅ではないので、苦しいコースはつからない、という二点です。

今回のように標高の高いところを歩く場合、思案のしどころです。奥の院(身延山の頂上)の標高は1153m、久遠寺から少し下ったところにあるロープウェイとの標高差は763m だそうです。往路と復路のどちらを歩くか。往路は呼吸器系や心臓がきついですし、復路は足への負担が大きいです。

山登りではないので、往路はロープウェイに乗り、奥の院まで。ロープウェイからや頂上での景色を存分に眺め、まず楽しみを先に手に入れてから、その楽しみ之余韻にひたりながら歩いて下山することになりました。ロープウェイでは所要7分が、途中観光しながらの下山は、ウォーキングの出発点の三門まで女性たちの足で3時間かかりました。

山梨県のウォーキングのパンフレットには1時間と書かれていますが、

### < モデルコース >

**身延駅** 9時38分着 (甲府発 8時48分の急行列車を利用するとこの時刻になる。)

(山交バス・片道280円...JRの到着に合わせてバスが動く) 久遠寺の総門をバスでくぐり、門前町の中間的位置にある仲町駐車場(町営有料) (徒歩)三門(前には観光案内所、トイレなどがある。)

ここをウォーキングの出発点とする。

三門から**菩提梯**という287段の階段を上がり**久遠寺本堂**へ。本堂に向かってその左脇奥からロープウェイ(片道680円)に乗って**奥の院**のある**身延山頂上**まで上がりましょう。奥の院が山頂で標高1153m。ここからの眺めは必見。眼下、はるか前方下の狭い谷に民家が心を寄せ合うように立ち並び、その向こうに富士川が光り輝いて、堂々と蛇行して駿河湾に向かってるのが見えます。左前方には富士山も見えるのです。この景色は山梨一価値があるかもしれません。帰りは、奥の院下から歩き始めました。およそ3時間、標高差760mあまりをゆっくり歩いて降ります。

久遠寺 御廟所 三門 門前町散策 バスターミナル発16時30分 身延駅発17時04分の特急乗車 甲府着17時56分です。お弁当は身延の地産地消で、総カロリー数500kcal程度で、竹皮で包んだゆば弁当などが新しく考案できれば、ヘルシーでフィットネス・ウォーキングにはぴったりです。

## ～オプション～

希望者は 三門横の宿坊・松井坊にて、入浴と食事を 1,800 円でいただきました。この松井坊では宿坊のイメージが180度変わる体験ができました。お風呂は100%洋風で、花柄の洗面器と花柄の洗い椅子が印象的でした。身延山の宿坊は 20 軒あまり、若い世代の力で変革し、それぞれの個性を大切に近代化しているようです。宿泊費用は 1泊2食つきで 8,500 円からとのこと。

松井坊での食事は湯葉を中心にしたヘルシーお膳が出され、美味でした。

また、宿泊する必然性として、翌朝は、久遠寺本堂で朝のおつとめを参観することができるとのこと。宗教に関係なく、こちらも都会暮らしの人には魅力的な素材だと思われます。

## 身延山実踏調査 データ表

消費カロリーはスポーツ医学の大学の先生に算出をお願いする必要があり、有償ですので、算出しておりません。データのみ下に記載します。本来は 10 人ぐらいでデータをとることが求められます。今回、血圧測定は 4 人、万歩計測定は 3 人でした。

### 三門にて

	血圧上	血圧下	脈はく	万歩計の数
A	131	88	79	1,843
B	156	106	75	
C	149	106	77	0
D	124	71	73	0

### 五重の塔 (菩提梯を上がり切った直後、久遠寺本堂の地面の高さ)

	血圧上	血圧下	脈はく	万歩計の数
A	124	84	93	2,514
B	139	91	85	
C	118	77	92	98
D	113	81	92	

菩提梯 273 段を歩いて上がった後も、血圧は上がらない。

### ロープウェイ乗り場

	血圧上	血圧下	脈はく	万歩計の数
A				3,176
B				
C				195
D				672

### 奥の院の石段にて

	血圧上	血圧下	脈はく	万歩計の数
A	126	94	98	3,752
B	139	86	78	
C	124	75	79	494
D	122	73	71	966

### 昼食後 奥の院下の見晴台 (降り始め出発点)

	血压上	血压下	脈はく	万歩計の数
A	136	106	93	4,954
B	121	77	73	
C	115	73	79	836
D	102	63	73	967

### 32丁 地点

	血压上	血压下	脈はく	万歩計の数
A	110	75	85	9,646
B	122	79	84	
C	116	78	85	3,498
D	130	98	83	4,961

### 15丁 地点

	血压上	血压下	脈はく	万歩計の数
A	120	75	80	13,545
B	122	74	68	
C	101	74	82	5,737
D	110	71	73	

### 三門

	血压上	血压下	脈はく	万歩計の数
A	109	80	87	18,557
B	137	96	71	
C	120	79	79	6,476
D	124	72	69	4,913

万歩計について

Dの調子が悪く、AとCの歩数が参考になる。

A 三門から三門まで 16,714 歩

C 三門から三門まで 6,476 歩

個人差が激しいことがわかる。

これらのデータをスポーツ医学の専門家に提出し、分析し、カロリーを算出願うことになる。

## < 特記 >

### 机上で見つけたモデルコース 8 選

**信玄の国盗り物語。信玄が上杉攻めのためにつくった軍用道路、信玄棒道フィットネス・ウォーキング**

三分の一湧水と信玄が川中島の戦いに兵を率いて向かった、八ヶ岳南麓から長野県に抜ける古道棒道、大井ヶ森番所あと、小荒間番所あと、古戦場あとなどをたどるフィットネス・ウォーキング。既存のコース「合戦の地「川中島」への信玄棒道」に熟年女性の視点を加味して構築したい。

**甲州街道、笹子峠を越えるフィットネス・ウォーキング**

江戸時代に旅人は江戸からどのように進んだのか、は興味深い。

**清里の清泉寮から紅葉の名所、東沢橋まで歩き、そこから川俣渓谷の溪流沿いに吐竜の滝へ。そして、大泉駅まで歩くフィットネス・トレッキング。**

**大日影トンネル遊歩道と、血液さらさら、点在するワイナリーで試飲しながら勝沼ワインの里フィットネス・ウォーキング**

既存のコース「トンネル遊歩道とぶどう峡ハイキング」に熟年女性の視点を加味して構築したい。

**富士山の入り口、富士吉田の歴史あふれる道フィットネス・ウォーキング**

既存のコース「月江寺界限昭和の街めぐり」に熟年女性の視点を加味して構築したい。

**身延山、三門から菩提梯を登り、日蓮宗の総本山久遠寺へ。奥の院まではロープウェイで登り、帰りは標高差 700 メートルあまりを歩くフィットネス・ウォーキング**

**名水百選に選定された大滝湧水と樹齢 400 年の神田の大系桜、そして、白樺派の作品を収める清春芸術村を巡るフィットネス・ウォーキング**

**徳川時代のメインロード、甲州街道を歩く、大月かいわいの宿場町めぐり**

他を含めて、全国に通用する要素をちりばめながら、12 コースを熟年女性の視点で構築したいものです。

それぞれのコースには総消費カロリーを明示していきます。